

小学校英語 Just Now

1. はじめに

本校は、長崎市に落とされた原子爆弾の被害を受けた悲しい歴史を背負っています。校舎の敷地には、被爆校舎や慰霊碑、平和のモニュメントなど原爆に関するものが多く存在し、平和学習や慰霊のために国内外から多くの方が訪れます。本年度は研究主題を「確かな学力を身につけ、平和な未来を構築する児童の育成～思いを伝え合い、人と関わりを深める活動を通して～」と設定し、総合的な学習の時間や道徳を中心として全教科・活動と関連させながら平和について学び、発信しています。

今年の7月に、イタリアの小学生から平和の願いが込められた折り鶴が贈られました。このことをきっかけに、5年生ではイタリアの小学生と交流を深める活動を計画しました。そこで今回は、*Hi, friends 1* (文部科学省) で初めてアルファベットを題材とする Lesson 6 「アルファベットを探そう」の活動を、子どもの実態や興味・関心に沿ってアレンジした授業実践、『アルファベットを使ってメッセージカードを作ろう！ ～平和の思いをメッセージカードで伝えよう～』についてご紹介します。

◆本校のHPに公開の指導案とあわせてご覧ください。

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

2. 小中連携授業

本単元の最後の時間を小中連携事業の一環として公開し、授業研究会を行いました。また、市教委指導主事に模擬授業・公開授業に来ていただき、指導をしていただきました。これまで、小中連携の情報交換の際に中学校の先生方から「外国語活動でアルファベットは書けるようにしてほしい」とたびたび言

アルファベットを使った コミュニケーション活動 ～平和の思いを世界に伝えよう～

木下聖子 Kinoshita Seiko
(長崎県長崎市立城山小学校)

われてきました。しかし、アルファベットを書けるようになるといった技能的なことは、現行の『小学校学習指導要領 外国語活動編』(文部科学省)には明記されていません。そこで、「アルファベット」を取り扱った授業研究を公開し、研究会を行うことで、授業の実態や活用している教材を具体的に理解していただき、指導法の継続性(小学校外国語活動で行ったような活動の設定、外国語活動で使った教材の活用)につなげたいと考えました。

3. 授業の実践

(1) 活動目標・目的意識と相手意識の明確化

アルファベットを使ったコミュニケーション活動の充実を図るために、次の活動目標を立てました。

- イタリアの小学生に、簡単な英語(単語)で作成したメッセージカードを贈ろう
- 級友のために、メッセージカードを作ろう

活動目標を立てることで、カード作成は自分のためだけでなく、相手のための(相手のことを考えた)活動になります。【目的意識の明確化】

最後に作成したカードについて、ペアで振り返りをします。相手のために作ったものなので、相手を認めたり、賞賛したりできる環境が自然に作られます(意識の共有)。また、4つのコミュニケーションポイント(Smile, Eye contact, Clear voice, Gesture)を活動の中でうまくできている子どもを認め、これらをクラスで意識させます。【相手意識の明確化】

(2) コミュニケーション活動について

ルールはシンプルに説明することと、ALTに英語で説明してもらい、担任が子どもにわかりやすい英語で繰り返して、活動のやり方や目的を理解させることを、日頃から心がけています。そして、子ど

もたちに自信をもたせ、次の活動につなげます。

(3) オリジナル教材と手立て (5 時間配当)

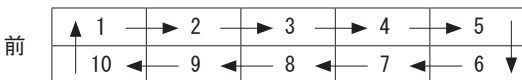
【第1時】意欲の高まりを継続させるため、まず、本単元のゴールを紹介しました。同学年の先生の協力のもと、メッセージカードづくりのDVDを作成しました。セリフは本単元で使用する英語表現だけにし、セリフが少ない分、動作や表情で何をしているかわかる内容にしました。その後、ワークシートを配り、平和の思いを感じる言葉とそれを選んだ理由を日本語で書かせました（それぞれが選んだ言葉は第5時のメッセージカードづくりで使うため、授業後に教師が英語に訳しておきます）。

【第2時】黒板にアルファベットの大きな文字を書き、何に関係するアルファベットかを当てるクイズをしました。ペアやグループで相談させたり、ジェスチャーや関連のある言葉でヒントを与えたりすることで、全員がクイズに参加できます。例えば、黒板に書かれたHとBを読みながら、何のことか推測していきます。筆箱を指差し、書く動作をすることで「鉛筆のHB」とすぐに気がきました。

【第5時 **展開**—メッセージカードを作るコミュニケーション活動】慣れ親しんできた表現を使い、店員役と買い物客役に分かれて行うSHOPPINGゲームで、自分がほしいアルファベットのカードを集めながら、メッセージカードを作成します。手順は次の通りです。

① デモンストレーション：めあてを確認したあと、ALTとのSHOPPINGゲームのデモンストレーションを見せ、コミュニケーションポイントを意識させる（どうするともっとよくなるかなど）。

② 表現・コミュニケーションの確認：隣の席と机を向かい合わせ、前後の席も机を隙間なく付けます。向かい合ったペアで表現を確認します。



10秒たったら合図で矢印の方向に席を移動し、次のペアと会話します。

③ 本活動—SHOPPINGゲームとメッセージカードづくり：コミュニケーションをしながらアルファ

ベットのカードを1枚ずつ集め、メッセージカードに貼っていき、ことばを完成させます。前後半で店員役と買い物客役の役割を交代します。

前半の活動を終えたら、評価の時間を設けます（中間の評価）。子どもたちが、コミュニケーションポイントを意識してできているか、自己評価や他者評価をし、互いの良さを認め合います。また、活動で困った点を出し合い、話し合っ、後半の活動に生かします。

活動で困った点としては、店に人が来ない（コミュニケーションがとれない）ことなどがありました。指導者が解決策を示すのではなく、子どもに意見を出させることで、後半のコミュニケーションの活動が充実します。



【第5時 **まとめ**—振り返りとその発表】学習の振り返りをカードに記入させたあとに発表をさせました。振り返りカードには活動の楽しさだけでなく、単元を通して感じたことなどが書かれていました。そして、作成されたカードに込められた「平和への思い」を紹介しました。

指導していませんが、振り返りカードに、掲示された単語やゲームの名前を写して書く子どもが増えています。自分から言ったり聞いたりした英語を書きたいという子どもの意欲の高まりを感じました。

4. おわりに

本単元は、英語というツールを使って自分の思いを表現し、相手意識をもって取り組んだ活動になりました。授業後の研究会では、中学校の先生方から「英語を習得するだけでなく、その態度や助け合う、声をかけ合うといった姿勢がよかった。中間の評価や振り返りの発表など参考にしたい。小学校の学習内容を意識して頑張りたい。」などの感想をいただきました。小中連携の大切さを改めて感じました。